

# たまには 乗り物に乗って津軽中下車

JR五能線に乗って秋田方面に向かう途中にある森木駅。「馬」という漢字を三つ使用して「とどろき」と読む、ユニークな駅です。日本海が、本当に手に届きそうな場所であり、潮の香りに誘われ、ぶらっと途中下車したくなるこじんまりとしたその建物は、記念に一枚写真におさめたくなる気持ちにさせてくれます。

公共交通機関はもろろん、車でドライブしながら立ち寄ってみませんか。

## アクセス方法（森木駅）

JR五所川原駅より五能線・秋田方面行に乗車、徒歩すぐ。



## 津軽の何気ない風景



とある夏の日の一枚です。場所は津軽鉄道沿線の水田地帯。稲がすくすく育つ七月初旬に、農家の方は、皆で一緒になつて草刈をしていました。

農家の必需品である軽トラに乗って駆けつけるため、初めての方だとその軽トラの台数に驚かれる方も居るかもしれませんが、何気ない津軽の風景なんです。

## 地元の味・津軽の味

津軽には山好きの人が多いため、季節ごとに採れる山菜を求め、山に入ります。もちろん、決して無理はしません。山を知っている人に連れて行ってもらったり、自分が知っている場所以外には行かない等の注意が必要です。

秋の味覚と言えば「さきもだし」ですね。津軽ではさきのこと言えはこれ！というのが「さきもだし」です。

全国的には「ならたけ」として知られています。この季節になるとあちらこちらで「さきもだし」というフレーズを耳にします。

味噌汁、塩辛にすることが多いさきもだし。味噌汁には大根おろしをたっぷり入れると更に美味しい。

そして、ねばりの強いこんぶと鷹の爪、だし醤油で味付けした塩辛は絶品！

彩りに菊を入れるのもお勧めです。

ぜひ一度津軽の秋の味覚をご賞味あれ。



## 何かに頑張っている人たち

NPO法人かなぎ元気倶楽部 斎藤 真紀子さん



平成十七年のNPO法人かなぎ元気倶楽部設立当時からのひたすら前に進み続けている斎藤さん。

金木商工会に勤務していた頃から、ボランティア活動やイベント事業の要方として切り替えることを知り、新設されるかなぎ元気倶楽部での仕事を「天職だ」と思ったそう。それでも初めの頃は星屑を作ることを求められ、商品造成提案や契約、経理、人事等様々な業務を経験することになりました。

「語れる郷土は自分たちで守っていこう」と活動を続けてきたかなぎ元気倶楽部では「青森ヒバ林と森林鉄道沿道」に光を当て、奥津軽全体の振興へと繋げようとトレッキングルート開拓に取り組んでいます。

現在は初心者、中級、上級の3コースがあり、自分のレベルに合わせて楽しむことができます。山に関して無知だと三浦新藤さんは山に詳しい方に連れられ、月に1、2度歩くそう。資料を見ながら5、6時間歩くこともあり、ひばの巨木や森林鉄道の枕木、レールを発見することもあるとのこと。

これからもルートを増やして奥津軽全域を繋げることで滞在時間を長くし、また別のルートを歩くりピクニックも増やしたいと話して下さいました。また、山好きだけでなく、山や草木に無知な初心者や自然が好きの方にもどんどん参加してほしいとのこと。

「語れる郷土は自分たちで守っていこう」という思いがひしひしと伝わってきました。

## ★イベント日程★

【五所川原市】	【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】
津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり
10月25日	10月25日	10月25日	10月25日
【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】
津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり
10月25日	10月25日	10月25日	10月25日
【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】
津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり
10月25日	10月25日	10月25日	10月25日
【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】
津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり
10月25日	10月25日	10月25日	10月25日
【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】	【大田原市】
津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり	津軽まつり
10月25日	10月25日	10月25日	10月25日

※日程は全て予定です。観覧の上、ご参加ください。

皆さま、こんにちは。今日もバリバリ元気なコットンです。

という挨拶からブログで登場するアテンダントの一言、コトコトこと竹内です。

独り言のコーナーなので、日常アテンダントが考えている事や津軽半島に対する思いをつづやいていきます。

津軽半島を宣伝する私たちは地元がとっても大好きな地元人です。ずっと住んでいると地元（津軽）の良い所ってどこだろう、そもそもそんな事を考える機会もありませんでした。それが、アテンダントになってから考えが変わりました。

自分の住んでいる町のことをほほ知らない状態だったので、こんな所があったんだ、こういう見方があったんだと気付かされることばかりでした。

例えば、名ばかりは知っていても実際は、行った事も無ければ素晴らしい景色に出会うことも無かった「湯の沢地蔵」や、当たり前のように感じていた「津軽平野」のどこまでも続く景色の良さに気付いたり、

当たり前前の光景と当たり前だと感じていた自然の力強さに気づかしながらも今、気付きました。

そして、「津軽半島」を紹介していく中で一番大きな役割を果たすのが、何よりも津軽半島に居る地元の方々です。「人情」と簡単に言うけれど本当に津軽の人は人情に溢れています。初めて話す人に対しては、一見素っ気なく見えるでしょうが、津軽人の気質がそこに詰まっています。何度か話していくうちに、いろんな話を教えてくれたり、私たちがアテンダントの代わりに観光案内をしてくれたり、自分たちで地域を盛り上げようと元気な人が多いのが見受けられます。

そんな、人・景色・食の恵まれた中で育ったアテンダントだからこそ、皆さまに対して自信を持って津軽半島の魅力を発信して案内が出来たのです。またまた、語りつくせない魅力を皆さまの目で、実際に感じてください。

コットンのアツい独り言でした。